

普及現地情報

発信年月日：平成 28 年(2016 年)5 月 30 日
所属名：湖東農産普及課
番号：F16003
部門分類：120 (麦)
発信者名：湯浅、數野

集落営農法人が小麦収穫前に現地研修会を開催

5 月 25 日、湖東地域集落営農法人連絡協議会・湖東地域農業センター主催による小麦現地検討会が開催されました。管内のほ場を巡回し、当課より本年の小麦の生育概況および収穫適期、JA とともに 3 年前から取り組んでいる施肥改善試験の内容等を検討しました。

本年産の小麦（湖東管内はすべて「ふくさやか」）は、記録的暖冬の影響を受け、2 月に走り穂が見られるなどこれまで異常ともいえる生育で推移してきました。研修会の過去 2 年の参加人数は 30 名前後でしたが、今年は 45 名（23 法人）で、関心の高さがうかがわれました。

ほ場巡回では、遅れ穂の発生抑制と省力化を目指した新しい施肥体系として平成 29 年産麦から導入予定の「緩効性肥料の 2 回施肥体系」の実証ほ場を中心とした 7 ほ場を巡回し、施肥体系の違いによる遅れ穂の抑制効果や成熟の進み具合を確認していただきました。

ほ場巡回の後は座学で本年の小麦の生育概況等を説明し、早いほ場で 6 月早々には収穫適期を迎え、作業計画の準備を指導しました。最後に JA より、施設荷受けは早かった昨年よりもさらに 3 日早い 6 月 1 日から始める予定であることを説明されました。

今後、収量・品質の状況を把握し、本年産小麦の作況を総括し、生産者に周知するとともに、平成 29 年産小麦に向けてのは種前研修会を 10 月 8 日に開催する予定です。

